

熊本県立玉名工業高等学校 令和5年度(2023年度)学校評価表

1 学校教育目標
教育綱領「明朗 誠実」「自律 協力」「勤勉 工夫」「健康 安全」のもと、生徒の豊かな感性や思いやりを育み、果敢に挑戦する態度を養い、企業や大学、地域との連携・協働により、地域の課題解決や発展に貢献し、地域社会に活力を与え、産業界の未来を担う人材を育成する。

2 本年度の重点目標
(1) 社会に適用する人間力(生きる力、考える力等)を持った人材の育成 (2) 確かな学力の向上と生徒の希望進路の実現 (3) 部活動・生徒会活動の活性化、心身の健全育成 (4) 学校の魅力化、地域とともにある学校づくり

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	信頼される学校づくり	安心安全な学校	・新型コロナウイルス感染症5類移行に対応した感染症対策の実施 ・ハラスメントや事故の未然防止	・個々の事情に応じた感染対策に切り替えつつ、基本的な感染症拡大防止対策の継続 ・互いに声を掛け、協力し合う風土づくり ・細やかな安全管理体制	A	・感染症予防においては生徒、職員における共通理解を図り、学級閉鎖等の適切な対応を図ることで学校行事への影響を最小限に抑えた。 ・いじめやハラスメント、問題行動の未然防止に努め対応を行い、人権意識を高める風土づくりを進めている。
		夢を実現する学校	・生徒にとって通いたい、教師にとって働きたい学校づくり(学校評価アンケート調査80%超)	・学力向上・ものづくり指導の取組による自己肯定感、自己有用感の育成 ・生徒への様々な情報提供及び進路希望等への組織的な支援	A	夢の実現に向けて一生懸命取り組む風土づくりはでき上がりつつある。ホームページや安心メール等で様々な情報を発信したこと、ものづくり教室の開催等への評価は高く、玉名工業高校の教育目標への理解等において高い水準を収めている。
	働き方改革の視点に立った学校運営	職員の負担軽減のための校務改革	・超過勤務時間縮減のための校務の効率化と組織的な取組 ・業務の平準化への体制づくり	・各種休暇を取得しやすい雰囲気醸成 ・衛生委員会等を活用した職員の業務状況確認の実施	B	職員が年休をとりやすい雰囲気や、働きがいのある学校づくりについては例年並みではあるものの、他の項目に比べて低いため、働き方改革について引き続き推進していく必要がある。

	入学定員の確保	入学希望者の増加	・4年ぶりに募集定員を満たした今年度の状態を維持	・体験入学のPR活動 ・高校魅力化の向上と発信 ・中学校訪問による学校説明会の実施	A	体験入学を夏季休業中に2日間に分けて実施。地域の中学生への学校PRとなった。中学校への高校説明会は20校に行った。
学力向上	教科指導の改善	・観点別評価による指導技術の向上 ・専門性の向上	・授業に関する興味関心の向上	・ICTを活用した授業評価の実施 ・さらなる授業改善と評価法の研修	A	授業評価アンケートをGoogle Formsで実施、チャイムに合わせて授業準備ができていた。夏季休業で授業改善に関する研修を行った。
	基礎学力向上と積極的な学習への取組	・自学への取組向上 ・生徒の理解度の把握と学習意欲の喚起 ・学習習慣の定着	・ICTや一人一台端末の活用 ・基礎学力の定着 ・学習への取組向上	・学力テスト等による基礎学力の把握と向上 ・授業時間数の確保 ・定期考査へ向けた環境づくり	A	一人一台のタブレット端末を積極的に持ち帰り、ICT・データ等の利活用を実践した。特別時間割による授業時間数の調整等をきめ細やかに行った。定期考査前の掃除を廃止、学習環境を整備した。
キャリア教育 (進路指導)	・職に就くことを前提とした進路指導の充実	・キャリア教育の充実	・インターンシップを終えての感想で、「充実していた」と答える生徒90%以上	・受入れ企業先の精選 ・事前指導(マナー講座)及び事後指導(振り返りシート・お礼状作成)	A	・受入れ企業先の精選を行うことができた。また、実習内容に興味を持って取り組むことができましたかという問いに、97.1%の生徒が取り組めたと答えた。
	・生徒一人ひとりの多様な進路実現	・玉工手帳の積極的活用と活用能力の向上	・「玉工手帳」を活用し、予定を立ててから行動できるようになった」と答える生徒65%以上	・(玉工手帳の活用・進路情報の提供等)	C	・「玉工手帳を活用し、予定を立ててから行動できるようになった」と答える生徒が、41.0%と昨年度比13.0%のダウンとなった。
	・キャリア教育の充実(人在から人材への高校3年間)	・生徒の自己管理能力、計画力、改善力の向上	・進学希望者及び求職者の最終合格・内定率100%達成	・個別進学指導の計画及び実施 ・各種検査の実施とフォローアップ ・教職員の研修会やセミナー等への参加 ・全職員による面接指導の実施 ・進路講話及び進路説明会の実施	A	・進学希望者の増加に伴い、受験計画及び学習意欲を高めるガイダンス等を実施した。 ・1年生においては、適性検査のフォローアップ学習を実施した。 ・本年度も全職員による面接指導を実施した。また、3学期に2年生を対象に、企業ガイダンスを複数回実施予定である。

生徒指導	基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・制服の正しい着用と地域に信頼される生徒の育成 ・社会のルールを順守する意識の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> ・服装や身だしなみの大切さについての理解（服装検査の合格率を各クラス90%以上とする） ・地域に信頼される行動の定着 	<ul style="list-style-type: none"> ・服装頭髪検査に向けた事前指導の徹底 ・HR指導及び集会等での指導 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・頭髪服装検査において、1回目の合格率が90%以上のクラスが18クラス中16クラスとなり、昨年度より増加した。服装や身だしなみについての理解度が向上していると考えられる。
		校門付近でのマナー向上	<ul style="list-style-type: none"> ・校門付近において通行の妨げになっている状況の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・下校指導の実施 ・担任指導や全校集会での周知徹底 ・スマートフォンの使用場所の検討 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・週に2回の登下校指導を正門で行い、少しずつではあるが改善している。しかし、下校指導がない日や考査期間中等の全校生徒が一斉に下校する時に、正門で通行の妨げとなっている状況もある。
	交通安全教育の推進	自転車運転マナー及び原付バイク運転マナーの向上	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路における交通指導 ・自転車二重口ツクの徹底 ・交通事故の前年比30%減 ・交通違反の30%減 	<ul style="list-style-type: none"> ・現地での登校指導の充実 ・交通委員による啓発活動及び職員による指導 ・原付通学生の定例会の定着と効果 ・原付免許取得者全員に対しての定例会の実施 ・担任指導や全校集会等による周知徹底 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・登校時に交通委員と施錠の呼びかけを週に2回行い、毎日掃除時間に施錠の調査を実施した。その結果、施錠率が平均85%まで上昇した。 ・自転車での登下校中の事故は昨年度より2件減（9件）だった。特に道路へ出てくる車との接触事故が多かった。また事故の発生時期も1学期に集中していた。 ・原付バイクの交通違反は12件で昨年度より3件増加した。来年度は定例会の充実を図るとともに、定期的に通学路での現地指導を実施し、規範意識を高めたい。
人権教育の推進	人権教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・研修の充実と推進体制の強化 ・指導方法の工夫と改善 ・学習環境の整備・充実と指導者の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・学期に最低1回程度の校内職員研修を実施 ・人権教育便りの配付（学期に1回） ・校外の各種研修会への参加を推奨（2回以上参加率平均70%） ・学年に応じた効果的なLHRの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育推進委員会で、校内職員研修の内容を検討 ・人権啓発、同和問題への関心を持つよう、最近の問題を提示 ・校外研修における全職員への参加の呼び掛けとレポート研修におけるレクチャーの実施 ・人権教育推進委員会や学年会で内容を協議 ・全職員によるレポート研修の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・職員への人権啓発や、校外研修に関しては、夏休みの研修での全員レポート研修、性の多様性について講師を招いての講演、人権子ども集会のオンライン視聴も行い、地域で2回ある研究集会には70%以上の先生方に参加していただき目標を達成できている。 ・生徒へ実施する人権LHRに関しては各学年の行事やスケジュールなどを考えながら効果的に行うことができていないことが課題として挙げられる。各学年の人権担当を配置しているので学年との話し合いを行い、工夫・改善していく必要がある。

	学力保障及び進路保障の支援	確かな学力を身に付け、進路を保障する取組の強化	・全ての教科において人権同和教育の視点で学習指導、生徒指導を展開 (就職内定率100%)	・進路指導部や各学年と連携し、全職員が生徒一人一人を大切にする学習指導、生徒指導の体制を強化	A	・多種多様な生徒の進路希望に対して、生徒と担任との面談時間を確保し、情報の共有に努めた。 ・就職内定率100%を達成した。
	命を大切にすることを育む指導	自己肯定感、自己有用感を高める指導の強化	・すべての教科で人権同和教育の視点から命を大切に授業の展開	HR活動や全教科での取組及びLHRにおける授業の実施(2回)	A	・第三次とりまとめを周知していることで人権に配慮した授業実践を行うことができている。また、保健部が行っているいのちの教育による講演会や性教育講演会などのいのちを大切にすることを大切にしている。
いじめの防止等	いじめ防止基本方針の推進	いじめにつながらない、学校全体の風土づくり	・全ての教育活動での注意喚起 ・情報提供・共有等の徹底 ・生徒の変化に気づき、変化を見逃さない職員間の協力体制の構築といじめを許さない体制及び環境づくり	・職員がいじめ防止研修を実施し、感性の高揚を促進 ・INI(いじめなくそう委員会)による啓発活動 ・スクールサインの投稿内容に対する組織的で素早い対応	B	・アンケートによるいじめの実態把握を行い、その結果をもとにいじめ防止対策委員会で検討し、早期に組織的な対応ができた。相談支援部及びSCやSSWとの連携ができた。 ・SNSでのトラブルやいじめ事案が発生した。学校配布タブレットの使用方法等と併せて、ICT推進部と連携して取り組んでいく必要があると感じた。 ・スクールサインから発覚したいじめ事案もあり、早期に対応することができた。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	地域連携	「地域とともにある学校づくり」の取組	・保護者、地域住民、行政等からの学校への参画並びに支援体制を促進させ、信頼関係の深化 ・「社会に開かれた教育課程」の実現	・学校運営協議会の充実と協力体制の構築 ・社会に開かれた教育課程の実現に向けた保護者や地域住民との情報や課題の共有化	A	・学校運営協議会も3年目を迎え、委員様からの御意見や御協力をいただいている。 ・外部からの技術指導や、地域行政や産業界との連携においては評価も高く、社会に開かれた教育課程に向けて着実な歩みを進めている。
		ボランティア活動の推進	・ボランティアへの参加をとおして地域住民との連携 ・地域イベントやボランティア活動の案内と参加	・ボランティアをとおして学校と地域を繋げる活動の継続的な実施 ・生徒会、JRC部、有志による地域清掃活動の実施 ・地域交流活動の実施	B	・玉名市や社会福祉施設主催の複数回のボランティアに積極的に参加した。 ・1月初旬に玉工杯グランドゴルフ大会を開催し、地域住民の方々との交流を深めた。 ・生徒会、JRC部、有志による地域清掃活動を実施することができた。(2月)

産業界や地域に貢献する人材の育成	ものづくり教育を通じた人づくり	産業界や地域との連携	・ものづくり教育の充実と職業人としての意識向上	地域の自治体や工業の関連企業との連携による技術力還元や実技指導等の実施	A	玉名市や商業施設と連携したものづくり教室、企業との連携等により、キャリア教育優良学校として文部科学大臣表彰を受賞した。	
		専門分野への知識や技能の深化	・ジュニアマイスター顕彰制度において連続して学校表彰を受ける ・ジュニアマイスター認定10%増	・ゴールド、シルバーだけでなく、ブロンズの認定の推奨 ・3年間の取得計画表の掲示 ・各種資格の周知 ・課外や模試の実施	A	ジュニアマイスター顕彰制度において、特別表彰が3名選出された。 課題として、技能士の受験料が高くなって、希望者が減った。	
		魅力発信	・学校の日々の様子を定期的に更新 ・中学生が入学したいと思う学習内容やものづくりの発信 ・地域イベントへの参加を通しての本校の魅力発信	・ホームページやインスタグラムによる情報発信 ・中学生に本校の魅力ある学習内容を発信 ・地域イベント等に参加し、メディア等を活用したPR活動	A	ホームページやインスタグラムによる情報発信が頻繁に発信することで、多くの県民や中学生に視聴してもらった。 玉名市産業祭への参加により、多くの来場者があり盛り上がった。 メディア等にとり上げてもらうことで、情報発信に貢献した。	
		部活動の振興	魅力ある部活動づくりとその活性化	・部活動の加入率の向上 ・各種大会において上位入賞及び上位レベルの大会への出場	・部活動指針に基づいた長期、中期、短期の目標を設定及び明確化・生徒の自主性を伸ばす計画的活動の実施	A	・体育系、文科系共に高い加入率となっている。 ・各部活動が部活動指針に基づき計画的に活動した結果、大会等での上位入賞が増加した。活動意欲等や部の活性化等につながった。
		部活動における安全管理	・毎日の健康観察の実施及び徹底 ・活動場所の安全管理と整理整頓 ・活動中のけがの予防及び防止の徹底	・部活動顧問会を定期開催することによる情報共有及び安全管理 ・毎月の活動内容の明確化及び休養日の定期的な設置 ・救急処置講習会の実施等、生徒の安全意識向上の推進	B	・定期的に顧問会の開催を行い、安全面や安全管理（計画等）等に対する呼びかけはできたが、生徒についての情報共有等には至らなかった。 ・救命講習会を行い、生徒・職員の安全意識の向上に努めた。	
保健管理	安心安全な学校づくり	安心安全な学校づくりのための環境整備	・安全点検実施100%	・毎月1回の安全点検 ・安全点検結果を事務室と共有 ・事務室との連携による早期整備・修繕等の実現	A	・毎月1回の安全点検を実施した。結果を事務室と共有し、整備や修繕等を可能な限り実施することができた。	

心身の健康を育む	健康に対する意識や自己管理能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の健康観察の徹底 ・保健だよりによる健康情報の提供 ・部活動生への救急処置講習会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康に関する生徒情報の共有 ・保健だよりの学期ごとの発行 ・体育会系部活動生対象の救急処置法講習会の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で健康に関する生徒情報の共有ができた。 ・保健だよりの学期ごとの発行をすることができた ・体育会系部活動生対象の救急処置法講習会の実施することができた。
	特別支援教育を含めた相談活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を持つ生徒、支援の必要な生徒の早期発見・早期対応 ・特別支援教育に関する職員の共通理解と実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修の実施 ・生徒状況把握のための各種調査の実施 ・個別的教育支援計画に基づく情報共有と支援の実施 ・SC・SSWや関係機関との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・科や学年を超えた横断的な生徒情報の共有に役立った。 ・個々の事例について支援の必要性等を多角的に複数の視点から協議し、問題解決に繋げるよう努めた。 ・時期にかなった適切な助言や調整が学校と家庭の連携に役立つよう取り計らった。
	<ul style="list-style-type: none"> ・自尊感情を高めるための取組及び他人への思いやりを持つ生徒の育成 ・命あるすべてのものを大切にす る心の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・いのちを大切にする教育の実施 ・ストレス対処教育の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年対象の講演会の実施 ・自らSOSを出す方法と傾聴方法の授業を実施 ・相談室だよりを活用したストレス対処教育の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・対面での講演会を学年ごとに実施し、命の大切さについて考えることができた。 ・SOSを発信しやすい関係性の構築、ストレスマネジメント、傾聴スキルなどに関する授業の実施。ストレスに対処する力の構築に努めた。 ・月に1度相談室だよりを発行し、自己のストレス状況の確認、対処方法等について紹介した。加えてSC面談等についても希望者を募り、職員に向けて生徒情報等の共有をした。

<p>4 学校関係者評価</p> <p>○Instagramでの情報発信等評価できる取り組みである。QRコードを活用してより多くのフォロワーを増やすと玉名工業を知って貰えるのではないかと。玉名工業独自のコンテンツを作り、科ごとに回すためのことを定期的に発信してはどうか。</p> <p>○いじめ防止の取り組みは先生方が一丸となって対応し、一定の効果を上げている。学校生活で何よりも大切な「安全・安心」が守られていると考えられる。</p> <p>○玉名工業ではスマートフォンの指導、校内での発覚した場合封筒に入れて保護者保管、7日後に生徒指導室で開封して生徒に帰すという方法は中学校でも取り入れたい。</p> <p>○就職指導について、タブレットを活かして電子版を取り入れているのは良いことである。中学生にも職業講話を行うと、先を見据える力がつくのではないかと。その時は保護者も入れた方がよいのではないかと。玉工手帳についてもタブレットにメモもできるようにするとICT活用推進につながると思う。</p> <p>○OneTeamプロジェクトや玉名市産業祭、KSHをはじめとしたものづくり教室はたいへん好評だった。Instagramで大会の様子だけではなく制作の段階から記録しておいて配信したらよいのではないかと。</p> <p>○昨年からは協議会に参加して大変勉強になった。工業高校や企業に関する情報を沢山聞けてよかったと思う。今後は今話題になっているヤングケアラーについても学校の配慮が進むようにしてほしい。</p> <p>○進学する生徒もいるが、就職率も100%である。この3年間玉名工業を見てきて、生徒が夢に向かって勉強している素晴らしい学校だと思った。今は小学校でも将来の夢のイメージがないことや自己肯定感があまり高くない。小学生にも感動体験をさせ、心を揺さぶり、チャレンジする力を育てるため、来年度はものづくりを通して連携を図っていきたい。</p> <p>○玉名工業から岱明中に寄付したリヤカーは非常に重宝している。いじめも生徒数が多い割には、件数少ないので生徒の心身ともにバランスよく教育できていると感じた。中学校でも、今後どんどん子供が減っていくので、生徒自身の学習意欲の低下が心配である。高校に合格するために勉強し</p>

ているのではなく、将来の自分を実現するために勉強していると思うので、もう一度、原点に立ち返らせて行くような指導が必要だと感じる。

○生徒のことを考えて学校運営していることが感じられる。PTAとしても清掃活動や学習のやり方をしっかり周知していく必要がある。掃除はしなくてよいほどきれいな環境を作っていくことが大切であると思う。

○学習意欲の低下については小中学校でも苦慮している。タブレットの活用や、将来のイメージを持たせて学ぶ意欲を高めていく工夫は、どの年代においても今後改善の余地があると考えられる。

○高校を中心に色々なことが真剣に話されているのは大変すばらしいと思った。玉名市でも高校進学者が全体的に減っていて、将来的に考えると人口減少に直結していて、玉名市の高校に進学する子を増やすことは役所としても政策の中でも重要な位置づけではないかと思う。来年度も地域と高校を結び付けるようなイベントを行ってきたい。

○日本の現状を見ると、格差社会が顕著になってきている。今後、進学を進める保護者も増えていくかもしれない。工業高校としても進学にも対応した教育も必要になると考えられる。

○生徒のことを考え、自主性を伸ばす教育、運営が行われていると思う。

5 総合評価

(1) 全体において

自己評価については、学校評価アンケート29項目中、生徒、保護者、職員ともに90%を超えた項目が14項目と、半数近くに迫った。進路情報の提供やキャリア教育において、生徒・保護者の評価が上がった。また、ボランティア活動の評価も急激に高くなった。コロナ禍が明け、生徒達の地域に向けた活動が再び動き出したことへの評価であると考えられる。保護者からの学校評価の数値が全般的に上がり、下がった項目がなかった。学校行事が復活したり、頻繁に情報発信を行ったりしていることにより、保護者の学校への理解が深まったためと考えられる。

いじめ対応について、保護者と教職員の評価が上がった。いじめ防止対策委員会等、様々な対応が評価されたと考えられる。

(2) 本年度の重点目標

(1) 社会に適用する人間力(生きる力、考える力等)を持った人材の育成

専門教育や産業教育、地域との連携、資格試験への取組みを通して、社会に通用する人間力を持った人材の育成を進めている。また、基本的な生活習慣やマナー、交通安全の意識向上に努めている。交通安全については全般的に90%、マナーは80%を超えているが、基本的な生活習慣については更なる取組みを進めたい。

(2) 確かな学力の向上と生徒の希望進路の実現

進路情報の提供やキャリア教育において高い評価が得られた。また、3年生の進路決定率も100%となっている。ただし、この項目については課題もあり、家庭学習が十分にできなかったと答えた生徒も多かった。

(3) 部活動・生徒会活動の活性化、心身の健全育成

部活動の活性化、健康意識、いじめ対応、命の教育については、高い評価を得ている。生徒会を中心とした学校行事についても、コロナ禍から脱し、再起動の年であったが、生徒会を中心に滞りなく実施できた。

(4) 学校の魅力化、地域とともにある学校づくり

様々な機会でものづくり教室や地域のニーズに応じたものづくり、寄贈を行った。また、地域の研究発表会に参加する等して地域との連携を図った。Instagramやホームページをととした積極的な情報発信に努めた。

6 次年度への課題・改善方策

○家庭学習、学習活動への意欲的な参加において評価が下がっている。今年度は2学期に行事が集中したことにより、継続的な学習が難しかったものと考えられる。次年度に向けて行事の精選や、時期についての検討を行っているところである。

○玉工手帳の活用についても対応が求められる。生徒の「書く」という行為へのハードルが上がってきており、運営協議会においてもタブレットを併用しつつも「書く」ということへの継続的な指導を求める声が上がった。

○教職員アンケートの「働きたい学校である」「休暇を取りやすい」項目の肯定的意見が70%程度なので、衛生委員会等を通じて更なる対応を進めたい。

○定期考査に落ち着いて取り組ませるために、考査期間中の朝掃除をカットしたところ、教職員アンケートの「清掃活動」の数値が下がったため、考査期間中もきれいな学校を保つ方法を保健部とともに検討していく。

○学校の魅力化について、今年度Instagramやホームページによる情報発信に力を入れ、保護者からは高い評価をいただいたが、玉名地区の中学3年生が減ったこともあり、志願者数増に結び付かなかった。次年度以降、本校の発信が中学生に届くような方法を模索する必要がある。